



～ごあいさつ～

本日は、私たち南アルプス桃源ウインドアンサンブル第6回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。開催につきましては、家族の皆さんのご理解、また桃源文化振興協会の方々、演奏における賛助出演の方々に支えられての演奏会であることは、言うに及びません。本当に感謝の気持ちで一杯です。

最近エコロジーがブームとなっております。地球環境を考えた電気自動車や、省エネ家電などが巷にあふれていますが、特筆すべきはそれに伴う技術の進歩です。6年前と今の、たとえば家電の進歩、IT技術と称される携帯やパソコンの進歩などは、本当に驚くばかりです。使いこなせないと思いつつ、つつい新しい物を欲してしまう…。

私たち桃源ウインドアンサンブルも6年の歳月を少しづつですが積み重ね、常に進化を目指し活動して参りました。ですが、それに相対し変わらないものに音楽、楽器に寄せる思いがあります。楽器のほとんどは、100年以上その機能に変化がありませんし、演奏する楽曲も150年以上も前に作られた物も演奏します。常に進化する時代にある中で、「古」との共存はとても暖かく懐かしく感じます。

まだまだ未熟な私達ですが、本日ご来場いただいた皆様に、懐古や安らぎを感じていただけたら幸いに存じます。しばし電子音から耳と心を放していただき、どうぞ最後までお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

南アルプス桃源ウインドアンサンブル
団長 大八木俊男



～ローマの松～

1924年にイタリアの作曲家レスピーギにより作曲された交響曲。第1楽章「ボルゲーゼ荘の松」、第2楽章「カタコンブの松」、第3楽章「ジャンニコロの松」、第4楽章「アッピア街道の松」の全4楽章からなる。

レスピーギは『ローマの松』を作曲した前後に、ローマをテーマにした交響詩『ローマの噴水』『ローマの祭』も作曲しており、『ローマの松』と合わせて、“ローマ3部作”と呼ばれている。

アッピア街道とは…

古代ローマ帝国には、「すべての道はローマに通ず」ということわざがあるように、ローマを起点に広大な支配地域にたくさんの道が通っていた。アッピア街道はその中の1つで、紀元前312年にローマからカプア（イタリア南部、カンパニア地方の都市）まで開通した。またアッピア街道は、その重要性から「街道の女王」とも呼ばれていた。